

的に行っていくのか、直接的に行っていくのかという部分で大きく違いがあるように思われる。各拠点での事情もあり、どちらが正しいとか間違っているという問題ではないが、そこから具体的な活動や運営の面に大きな影響が出てくる。

国や社会など外部に向けて貢献を考えるなら、日本語教育の質も問題になってくる上、現場の教員をどう育成していくかにも大きな影響がある。その国で一流を目指し天理教として貢献していくことで間接的な布教を展開していくのか、それとも日本語教育を通して人との接点を作り直接的な布教を展開していくのかという部分に関しては、布教戦略として深く検討していかなければならない部分だと思われる。

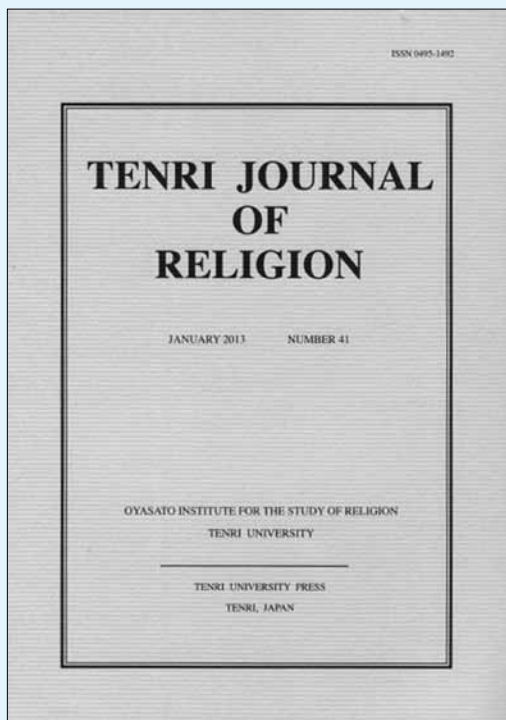
文化活動としての日本語教育の根底に「布教」があるのは間違いないが、別席者・婦参者の数だけで見るならば、日本語

教室の学習者数がいくら多くても評価されるものではないだろう。しかし教団としてその国・社会への貢献を考えると非常に大きな意義があるものと思われる。

### 日本語教育の人材育成

いずれの考え方で海外の拠点で日本語教育を行っていくにしても、それらを支える人材の育成が非常に重要であることにはかわりない。人材育成はお金も時間もかかるものであり、長期的な視野で進めていかなければならないが、解決すべき課題も多い。人材を日本から送り出すだけでなく、現地在住の人を育成して長期にわたって現地で活躍できるようにするなど、現地化することも今後は視野に入れる時期が来ているようにも感じている。

## 新刊案内



以下の論文が掲載されている。

- Keiichirō MOROI  
The Teachings Penetrated by the Truth (ri)
- Hideo NAKAJIMA  
Exploration of the Study of Tenrikyo Doctrine :  
An Interview with Professor Hideo Nakajima
- Yukihiro DOI  
“Restoration” Reexamined :  
Through Changes in the Musical Instruments
- Mikio YASUI  
Toward a New Type of Civilization
- Barbara R. AMBROS  
Nakayama Miki’s Views of Women and Their Bodies  
in the Context of Nineteenth Century Japanese Religions
- Yoshitsugu SAWAI  
Religious Diversity and Contemporary Societies:  
Toward New Perspectives in Religious Studies



以下の論文が掲載されている。

- 辻井正和：おさしづにおける「道」と述語
- 澤井義次：ハイラーの宗教学的パースペクティブ考—宗教概念としての「祈り」の意味構造をめぐって—
- 金子 昭：シュヴァイツァーのパウロ研究の出発点
- 島田勝巳：初期クザーヌスにおける“神の名”の問題—トマスのアナログア論との比較から—
- 八木三郎：障害者用駐車スペースの適正利用に関する研究—デンマーク事例—
- ファン・ホセ・ロペス・パソス：西谷啓治の「空」の論理とその構造

いずれもおやさと研究所でお求めいただけます。